

八尾・よろず考古通信

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌 年2回発行



令和4年度の主な発掘成果から

小阪合遺跡第50次調査では弥生時代後期の墓域、久宝寺遺跡第98次調査では古墳～奈良時代の河川跡、同遺跡第97次調査では古墳時代中期の須恵器が出土し、飛鳥～奈良時代の居住域も確認しました。また、東郷遺跡第91次調査では古墳時代後期の祭祀跡の可能性のある土坑、心合寺跡第3次調査では飛鳥時代に遡る瓦が出土し、中世の居住域も見つかっています。さらに植松遺跡第18次調査では奈良～平安時代の居住域、小阪合遺跡第51次調査では奈良～平安時代の大溝を発見しました。

以下では、主な遺跡(図1)の発掘調査の成果を時代毎に紹介いたします。



図1 調査位置図

弥生時代後期の墓域を発見か？

小阪合遺跡<第50次調査> (山本町南七丁目地内他)

調査では、弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構(写真1)が検出されました。周辺の第28次調査では弥生時代後期の墓域・居住域、また第42次調査では弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構が確認され、当時の墓域や居住域が遺跡南東部に展開していたことが判りました。本地では体部に穴があいた弥生時代後期の長頸壺が出土しており、第28次調査で確認した墓域が南に広がる可能性があります。



写真1 4区土坑内遺物出土状況(西から)



写真2 調査状況(南西から)

古墳時代前期～奈良時代頃の河川跡を発見！

久宝寺遺跡<第 98 次調査> (神武町)

調査では、河川跡(写真 3)が合流する付近において、護岸に使用した杭と思われる木製部材を発見しました。近隣の調査では、河川跡から堰や朝鮮半島から伝わった技術で築かれた堤など、治水施設が見つっています。本地周辺には、渡来系の高度な土木技術を持った集団がいたのではないのでしょうか。また、河川跡の上面で中世の井戸(写真 4)を発見しました。河川の埋没後に作られたようです。



写真 3 第 2 面全景(北西から)



写真 4 井戸検出状況(東から)

飛鳥～奈良時代の溝を発見！？

久宝寺遺跡<第 97 次調査> (南久宝寺一丁目地内他)

調査では、南南西-北北東方向に延びる飛鳥～奈良時代の大溝を検出しました。東隣の第 95 次調査でも本溝と同時期の溝と建物跡を示す柱穴が見つかり、この溝は第 95 次調査の居住域を区画するための溝と考えられます。また、古墳時代中期の地層からは須恵器の樽形 甗たるがたはそうや円筒埴輪が出土しました。周辺の調査でも埴輪が出土しており、本地付近に古墳が存在していた可能性が高くなりました。



写真 5 周辺状況(北から)



写真 6 調査区南部全景(南から)

古墳時代後期の祭祀！？

東郷遺跡<第 91 次調査> (桜ヶ丘二丁目)

調査では、古墳時代後期の土坑(写真 7)から甗、小型の壺、ミニチュア高杯が出土しました。これらの器種は、祭祀で使用されたと考えられ、今回の事例では、密集して出土していることから、使用後にまとめて廃棄された土器であると推測されます。当地を含む東郷遺跡の南東部では、古墳時代後期の遺構の検出事例が少なく、当時の様相を知る上で注目されます。



写真 7 土坑内遺物出土状況(南から)



写真 8 全景(東から)

心合寺跡との関連が考えられる溝を発見！

心合寺跡<第3次調査> (大竹四丁目地内)

調査では、飛鳥時代の軒丸瓦が出土しました。飛鳥～奈良時代においては北北東-南南西方向に直線的に延びる溝(写真9)や固く締まる整地層を確認しました。調査地付近に存在したと考えられる心合寺跡との関連が考えられ、重要な遺構と言えます。鎌倉時代では溝を検出しました。非常に大規模な北北東-南南西方向の溝(写真10)であり、居住域を区画するような性格が考えられます。



写真9 飛鳥～奈良時代の溝(南から)



写真10 鎌倉時代の溝(北から)

奈良～平安時代の居住域を発見！

植松遺跡<第18次調査> (植松町六丁目地内他)

奈良時代中期の土坑(写真11)からは、口縁を上にして意図的に埋置された須恵器杯が発見され、何らかの祭祀に関連する遺構と考えられます。平安時代では、南北方向に延びる溝(写真12)を検出しました。方位に則った土木設計は、律令社会の影響を示しています。また、当時一般住居で使用されていなかった瓦のほか、皇朝十二銭も出土しており、溝の性格と遺物の関係が注目されます。



写真11 土坑内遺物出土状況(南から)



写真12 溝検出状況(北東から)

奈良～平安時代の溝を発見

小阪合遺跡<第51次調査> (若草町)

調査では、奈良～平安時代の南北方向の大溝(写真13)を検出しました。これは本地の北で行われた第40・41次調査で確認した大溝の南への延長と考えられ、規模は120m以上に及ぶことが判りました。大溝からは、古代の土師器などの他、墨書人面土器、木槽(写真14)、木簡、鉄滓、獣骨が出土し、本地の周辺には、これらを用いた役所などの公的な施設が存在した可能性が考えられます。



写真13 大溝検出状況(東から)



写真14 大溝内木槽出土状況(北から)

『山田寺式軒丸瓦』を発見！

久宝寺遺跡第97次調査では、南南西-北北東方向に直線的に延びる溝から飛鳥時代の軒丸瓦(写真15)が出土しました。この軒丸瓦は、『山田寺式軒丸瓦』に分類されるもので、内区に単弁蓮華文を、外区に重弧文を配するなどの特徴を有します。

奈良県桜井市吉備に造営された吉備池廃寺出土の軒丸瓦と実見調査を行ったところ、文様構成や胎土が酷似することが明らかになり、同じ木範から製作された軒丸瓦の可能性が高くなりました。瓦当裏面の調整方法に限っては、やはり吉備池廃寺と同範瓦である大阪市四天王寺出土軒丸瓦に類似することも判明しました。

吉備池廃寺は、舒明11年(639)に、天皇家によりはじめて発願された『百済大寺』に比定されています。このような軒丸瓦がなぜ八尾市久宝寺遺跡から出土したのか、その歴史的背景の追究こそが、私たちに与えられた今後の課題と言えます。



写真15 軒丸瓦

イベント情報

秋季企画展「邪馬台国時代の八尾
- 他地域の土器は何を語るのか -」



内容：弥生時代後期～古墳時代前期の他地域の土器について紹介します。

期間：令和5年9月27日(水)
～令和5年12月24日(日)

時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

休館日：土・日・祝日

但し10月21日(土)、11月18日(土)・19日(日)、
12月24日(日)は休日開館

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌

『八尾・よろず考古通信 29号』

発行：令和5(2023)年10月31日

八尾市立埋蔵文化財調査センター指定管理者

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2

TEL・FAX 072-994-4700

E-mail: maibun_zyao@white.plala.or.jp

